



編集月旦 2015年11月号

☆「長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高齢者が安心して暮らすことのできる社会」を掲げた「高齢社会対策基本法」の制定（1995年11月・村山内閣）から20年。そういう社会にむかっていますか。

この間、高齢化対策のうち年金・医療・介護といった「高齢者対策」はなんとか財政のやりくりをしながら進展をみましたが、社会意識の醸成・社会システムの創出・世代交流といった「高齢社会対策」は延滞しつづけてきました。

☆20年を機に、安倍内閣は3380万人、4人にひとりに達した高齢者に対策での「政治不在」の非をわびて、「一億総活躍社会」への参加を呼びかけて、目標「新・三本の矢」を訴えるべきではないですか。いまこそ「青少年(成長力)+中年(成熟力)+高年(円熟力)」の三世代が力を合わせて、史上新たなオールジャパン・オールエイジズの「一億総活躍社会」をめざすこと。

☆10月7日の内閣改造で、安倍総理は「一億総活躍」をとらえて担当大臣を登場させました。これまでの女性と若者の「成長力」に期待し優先してきたアベノミクスの先行きを憂慮して、「一億総活躍」を言い出した総理自身にも、そして担当の加藤大臣にも、残念ながら「成熟力+円熟力」を駆使して、各地各界で地道な活躍をしている「支え手の高齢者」の姿は見えていないようです。

☆「一億総活躍国民会議」の15人の民間メンバーに、女優の菊池桃子さんが選ばれて話題になりましたが、オールジャパンの経済社会にするためには高齢世代の代表を四、五人は加えるべきでしょう。安倍総理と加藤大臣と現役官僚の視野にはいる人を集めてあわてて議論をしても、「一億総活躍社会」の実現にむかう構想や提案は出てこないでしょう。

☆目標の「新三本の矢」(GDP600兆円、出生率1.8、介護離職ゼロ)は方向がばらばらで「無的放矢」といわれてもしかたがありません。正しいマトはひとつ、高齢者参加による三世代協働の「日本長寿社会」(世界が期待する先行モデル)なのです。

☆「GDP600兆円」は、高齢者が培って保っている技術や知識や資産を活かして製作する「優良国産・地産品」によるエイジノミクス(高齢化経済)で、「出生率1.8」は祖父母世代の支援による若い人が結婚して子どもを育てられる環境づくりで、そして「介護離職ゼロ」は当事者である高齢者の「助け合い」による敬老介護で。

☆繰り返しますが、「成長力(青少年)+成熟力(中年)」に「円熟力(高年)」を加えた三世代力で支え合って創り出す「平成長寿社会」が、史上新たな「一億総活躍社会」なのです。

☆一つひとつは水玉模様のように小さくとも、だれもがどこでも安心して生涯をすごせる「地域生活圏=エイジング・イン・プレイス」構想を掲げて、各地各界の高齢者みずから存在感を示すこと。その総体が「一億総活躍社会」です。その拠点のひとつとして烽火をあげたのが「月刊丈風」(丈風の会)です。みなさまと連携して、ほんとうの「一億総活躍社会=平成長寿社会」を創り出す歴史的事業に、お互いの「人生90年」の日また一日を重ねようではありませんか。

◎賛同していただけるお仲間へ「月刊丈風」の転送をお願いします。

失礼があればお恕ください。

*堀内正範 web「月刊丈風」編集人 元『知恵蔵』編集長
「丈風の会」<http://jojin.jp/> e-mail mhori888@ybb.ne.jp

